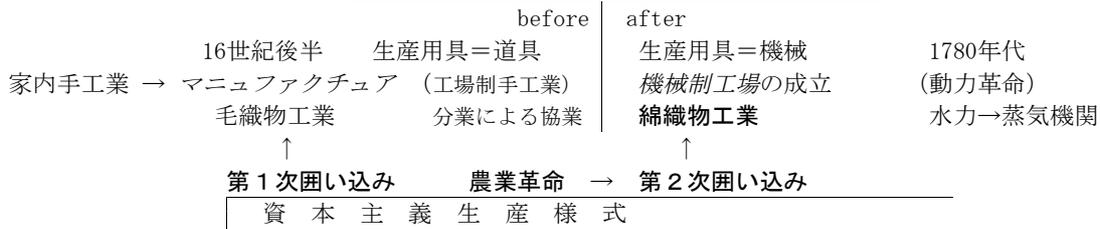


産業革命は1760年代のイギリスで始まった!

覚えること



産業革命以前のイギリス

1) 17世紀のイギリス革命以降、**経済活動の自由**が保障され、特権商人やギルドにかわって、新興商人やジェントリ ※らが旺盛な産業活動を行っていた。

※下層貴族と豊かな独立自営農民(ヨーマン)との中間に位置する平民の地主層。ピューリタン革命の担い手。

18世紀、イギリスはフランスとの戦いに勝利し広大な海外市場を植民地として獲得しつつあった!

2) 産業革命以前のイギリス繊維工業の中心は【1: _____ 業】だった。

16世紀後半以降、イギリスの毛織物業において【2: _____】が展開された。
道路や運河を造る技術も進歩し、輸送手段も確保された。

マニュファクチュアとは何か

- ①マニュファクチュア manufacture とは、【3: _____】が工場を建て、【4: _____】を集め、「分業による協業」によって生産を行う制度である。生産用具は【5: _____】である。
- ②経営者は産業資本家であるが、多くは【6: _____】と呼ばれる階層である。
利潤を求めて投資が行われた。 gentry (郷紳): 平民であるが地主
- ③すでに、この段階は【7: _____】の生産様式であると言える。

資本主義は16世紀後半、イギリスの毛織物マニュファクチュアをもって成立した。

資本主義とは資本家が労働者を雇い、市場を目標に大量生産を行う生産様式。

1) 毛織物は売れ行き好調。増産したいが原毛が不足していた!そこで、地主(貴族やジェントリー)や領主は、農地を農民から取り上げ、生垣いけがきや塀で囲んで**牧羊地**にした。このような行為はイギリスで15世紀末に始まり**16世紀に最高潮に達した**。厳密には非合法である。この生垣や塀は羊の管理用であるとともに「農民入るべからず」の固い意思表示でもあった。これを【8: _____】と言う。

……羊は、昔はおとなしい動物でしたが、イギリスでは今や人間を食うようになりました……

トマス=モア『ユートピア』(1516)より

2) **土地を追い払われた農民**は、都市に移住し、マニュファクチュアの労働者となった。毛織物業は、大発展し、イギリスの国民産業になった。労働者は常に供給過剰で、低賃金で長時間働かされた。就職できない人は、浮浪人とならざるを得なかった。

第1次囲い込みの時の農村から都市への人口移動はさほど大規模ではなかったという学説もある。

産業革命の背景と社会の変化

1) 西ヨーロッパでは、18世紀前半に農業技術の改良が行われ、食糧事情は好転した。まだ産業革命以前であることに注意せよ。それは、「【9: _____】」と呼ばれる新農法である。大麦・クローヴァー・小麦・かぶの順に4年周期で行う四輪作農法で、三圃制と異なり休耕地(休耕地)がない!穀物増産に貢献し、牧草栽培も増加して家畜の飼料の供給も増大するなどメリットは大きかった。家畜を晩秋に大量処分して塩漬けする苦労はなくなり、出荷時の肉牛の平均体重は2倍になったと言われる。同じく18世紀前半には、猛威をふるってきたペストも姿を消し、人口は持続的増加に転じた。

比較的豊かな家庭では、食事もライ麦や大麦にかわって小麦のパンが主食となり、肉やジャガイモ、大豆なども食べるようになって栄養状態は大幅に改善された。

2) 18世紀後半、人口の急増で穀物価格が上昇した。農業資本家が大地主から土地を借り、広大な農地に農業労働者を雇って、市場向けの大規模な**穀物生産**を行う資本主義的方式への移行が行われた。大地主は、**18世紀から19世紀初めにかけて**、中小農民や小作人の農地や入会地を次々に囲い込んだ。これを【10: _____】という。目的は**資本主義の大農場経営**であり、今回は食糧増産が至上の課題だったのでイギリス議会あげての賛成で、完全に合法的だった。零細な農民を閉め出した大規模な農場では、【9】がいかになく行われ、ここで生産された穀物が産業革命期の人口増を支え、農地を失った農民は、賃金労働者になる他はなく、産業革命が促進された。このような、イギリスの農業に起きた大変革を、まとめて【11: _____】とも言う。

入試の解答欄に「囲い込み」と答える場合、「第1次」か「第2次」かを書かないと、解答として意味がない。単純化すれば16世紀=第1次囲い込み、18世紀(～19世紀初頭)=第2次囲い込み。

3) 土地を追い払われた農民は、農業労働者になるか、あるいは都市に移住し、農業革命に次いで始まったばかりの産業革命で成立した機械制工場に雇われて働く労働者になるほかになかった。生産手段を持たない労働者は、自らの身体に備わった労働力を売る以外に生きる道はないのだ!

- 4) イギリスは、17世紀のピューリタン革命と名誉革命を経て、立憲王政が安定し、自由な生産活動を妨げる特権やギルド組織も除去され、世界的な商業覇権の獲得で、資本の蓄積は充分。海外市場も充分だった。石炭、鉄資源に恵まれていた。また、18世紀の精巧な機械時計に象徴される機械製作のスキルが優れた職人たちの下に蓄積されていた。このような条件が、3)と相俟って、産業革命を可能ならしめた。

イギリスの産業革命 ……それは綿織物業の機械化から始まった。

- 1) イギリスの毛織物業は国民産業として発展していたが、17世紀になるとイギリス東インド会社がインドから手織りの綿織物を輸入するようになり、インド産綿布（キャラコ※）が着やすさと染め柄の美しさから、ドレス生地などとしても大人気となり、イギリスの毛織物業界は大打撃を受けた。毛織物業者の要求で、1700年、政府は「キャラコ輸入禁止法」を發布したが抜け穴だらけの法律だった。キャラコは大西洋三角貿易（奴隷貿易）の必須アイテム（アフリカに運んで奴隷と交換）であり、東インド会社の最大の取り扱い商品だったからである。資本家たちは、綿織物生産の機械化に取り組まざるを得なくなった。

大西洋三角貿易（奴隷貿易）で繁栄したリヴァプールの後背地、マンチェスターを中心とするランカシャー地方で綿織物業における機械化、動力化が最初に行われたのは偶然ではない。しかし、【12: _____】産の手織り綿布は価格・品質とも、いかなるヨーロッパ製品よりも優れていた。資本家たちは、模造品を工夫し、品質向上の努力をしながら、インドの綿織物業の壊滅を望んでいた。

※ インド産高級綿織物はキャラコと呼ばれ珍重されていた。

- 2) 綿業で次々と技術革新行われる！ ①～⑤は開発された順。 _____ どの教科書にも年表あり。

①1733年 ジョン=ケイ 1704-64? 《織機の改良》 【13: _____】を發明、特許取得。織布能率倍増

失業した織布工の迫害をうけて数回転居、フランスに逃れ貧困のうちに死亡。

飛び梭 とびひ : 横糸を巻いた梭（ひ 杼とも書く）を、縦糸の間に自動的に動かすこと。

それ以前は梭（ひ）を手で動かしていたため織物の幅は職人の両手幅に限定され、幅広の織物は職人数人で行っていた。毛織物工場の織物職人だったジョン=ケイは、織機の中央のひもを引くと横糸用の杼がバネで左右に飛ぶ「飛び杼」を發明し、これによって織布速度は2倍になり、幅広の布を一人で織ることも可能になった。彼が特許を取得したのが1733年。毛織物用に開発された飛び梭は時間をかけて徐々に綿織物に転用された。（だから、産業革命の始期は1733年ではないのだ！）

《紡績機の改良》

②1764/67年 【14: _____】?-1778 ジェニー（多軸）紡績機 を發明

彼も本業は織工。失業を恐れる熟練工に憎まれ特許争いに巻き込まれ、貧困のうちに死亡。

1人で8本（改良機は80本）の糸を紡ぐこと（繊維をより合わせて糸にする＝紡績）ができた。ただし人力。

☆☆これこそ、産業革命のスタートを象徴する事件である☆☆

「産業革命は1760年代に始まった」とは、これを指している。

③1768年 アークライト 水力紡績機を發明 1790年に動力を蒸気機関に変更

④1779年 クロンプトン 1753-1827 《重要》【15: _____】（=今日の紡績機の原型）を發明

細くて強い糸を紡げるようになりやっとインド製品に勝てた。

《実はこうだった》 1760年代の糸の大量供給を可能にした紡績機の進歩に対して、織機の進歩は下記の⑤までの間、遅れをとっていた。この間は、なんと従来の方法で織物を行う手織工が多数存在し、初期の労働運動は彼らの中から起こった。また豊富な糸供給で手織りの家内工業も発展した。織布においても機械制工場が圧倒するようになるのは実に19世紀半ば近くになってからのことなのである。

⑤1785年 【16: _____】 1743-1823 《織機の改良》 力織機 りきしよつき を發明。

蒸気機関を使用（力織機の「力」はpower upしたことを表す）生産力は手織機の3.5倍。今日の織機の原型である。ようやく本格的な機械織り綿織物を大量に生産できるようになった。産業革命は成就した。

②から約20年を要して進行したこの変革を「革命」と呼ぶのは不適切であるとの学説も存在する。

- 3) 綿業都市【17: _____】の繁栄：カリブ海諸島や北アメリカ南部の奴隷農場から輸送されてきた安価な綿花を原料に、綿織物業が飛躍的に発展した。その付属港がリヴァプールである。なお、【17】はランカシャー地方にある。

20世紀最大のアーティスト、「ビートルズ」の結成地はリヴァプール。

- 4) 【18: _____】という用語は、単に綿織物工業の機械化・動力化という意味にとどまるものではない。機械化・動力化は全産業に波及し、機械を生産する産業分野も発展し、燃料や原材料を調達する企業も発達した。【17】に限らず各地に商工業都市が成立し、「農業社会」から「工業社会」への移行をもたらした社会変革を【18】と呼ぶ。

【18】によって成立した新しい社会のリーダーは、当面は【19: _____】であった。

2014 慶應義塾大学 抜粋・編集

産業革命にはふたつの段階があった。第一段階の主役はイギリスである。第1次産業革命の初期、つまり18世紀の技術革新は、繊維産業の分野を中心に展開された。たとえば、(1)が改良を加えた蒸気機関を利用した(2)の力織機の發明などである。イギリス綿織物業の綿花は、はじめはカリブ海地域から、ついでアメリカ南部の奴隷制プランテーションからもたらされた。やがて世界最大の綿織物工業地帯であった(3)も綿花の生産地となった。

問 当時マンチェスターが綿織物業の中心都市として栄えた。なぜ、内陸であるこの地が中心地となったのか。「奴隷貿易」という用語を用いて、30字以内で記入しなさい。

1:ワット 2:カートライト 3:インド 奴隷貿易で栄えたりヴァプールから資本と綿花がもたらされた。